

保健体育科における授業観察の「転換」の必要性

—附属中学校における教育実習の授業分析から—

高橋浩二，久保田もか（長崎大学教育学部）

元嶋菜美香，田井健太郎，宮良俊行（長崎国際大学人間社会学部）

1. 序

長崎大学教育学部保健体育専攻及び長崎国際大学教職課程（保健体育）では、2017年度から保健体育授業研究会を実施し、保健体育教員養成に関する教育研究を積み重ね始めている¹。しかし、それは大学生同士や大学教員と大学生によるロールプレイング型の模擬授業であり、「授業の真正さ」に課題があると言えよう。このような課題に対して、木原ら（2008）は小学校体育科についての一般的な模擬授業について、「体育の授業を計画し実施するために必要な能力育成のために教育実習の準備として指導されることが多い。」と指摘し、教授技術、授業実施能力、授業評価能力、省察が指導されてきたと述べている²。その上で彼らは、「体育の授業を観察する能力の養成」の必要性を指摘し、彼らが開発した模擬授業のテスト映像を用いた事例研究をおこなっている。また、藤田（2017）は中学校及び高等学校保健体育科の模擬授業について、教材づくりに焦点を当てた実施方略の効果を検討している³。

一方、中央教育審議会（2015）「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上」（答申）⁴では「学び続ける教員像」が提示され、教員の養成・採用・研修の一体的改革が掲げられた。保健体育科の教師が授業に対してどのように居合わせるかについては、教師自身の身体及び運動能力を含めて資質及び能力として現れてくると言えよう。さらに言えば、木原らが述べている授業を観察する能力だけでなく、自ら授業を構成する能力もまたその資質及び能力に影響を受ける。そのためには、ショーンの「行為の中の省察」⁵やレイヴ&ウェンガーの「状況に埋め込まれた学習」⁶による「実践の中（in）/実践について（on）」の区別、稲垣・佐藤の「授業研究」⁷や佐藤の「学びの共同体」⁸における実践に関する理論の理解が重要である。また、中田（1993）の「授業の雰囲気」⁹や「身体的感受性」¹⁰、溝上（2018）の「アクティブラーニング型授業」¹¹において指摘されている教室の時間・空間の作り方や教師と生徒、生徒同士の身体性の学習が必要である。

以上の背景から、本研究では長崎大学教育学部附属中学校の協力を得て教育実習期間中の学生による授業を観察した。観察後には観察者による省察を実施し、その結果を授業実施者に示して結果及び授業内容について検討した。以上の検討から教員養成課程における学修を通じた「転換」の必要性を論じた。

2. 附属中学校における授業内容の検討

長崎大学教育学部では4週間の教育実習を実施しており、今回の授業は3週目であった。授業実施者は実施日までに単元を展開してきており、生徒観、教材観共に理解が進んでいる状態である。授業観察の対象となった授業の概要は表1の通りである。本単元は中学校3年生の選択制授業であり、授業に対する関心・意欲は高く、積極的に取り組むことができる状態であった。なお、選択の結果によって人数や性差に偏りがある。図1は当日の授業案である。図2及び図3は田井ら(2018c)と同様に実施した「観察者用授業評価(16項目)」、「授業を受けての感想(省察)」、「反省会を終えての感想(省察)」¹の結果を授業観察者及び授業映像観察者に分けてグラフ化したものである。なお、授業実施者は高橋(2003)によって作成された「体育授業場面のコーディングシート」¹²を活用しながら授業を分析し、大学教員との間で授業者の視点と観察者の視点の差異についてまとめている。

表1. 授業の概要

①	<p>授業者： NY</p> <p>実施日： 平成30年9月20日(木) 10:00~10:50</p> <p>対象者： 第3学年1・2組 男子13名 女子22名</p> <p>場 所： 長崎大学教育学部附属中学校体育館</p> <p>単元名： 球技(バレーボール)</p> <p>○自己の役割や責任を果たそうとするとともにマナーや安全に配慮して主体的に行動することができる。(関心・意欲・態度)</p> <p>単元の 目 標： ○自己やチームの課題に応じた運動の取り組み方の工夫している。(思考・判断)</p> <p>○ボール操作や空間を利用して、仲間と連携した動きを展開することによって攻防を楽しむことができる。(運動の技能)</p> <p>題 材： 基礎技術を習得しよう</p> <p>目 標： 既習の技を復習し、自己やチームの課題を見つけることができる。</p>
②	<p>授業者： KS</p> <p>実施日： 平成30年9月20日(木) 11:00~11:50</p> <p>対象者： 第3学年3・4組 男子6名 女子23名</p> <p>場 所：</p> <p>単元名：</p> <p>単元の 目 標： ①と同じ</p> <p>題 材：</p> <p>目 標：</p>

II. 本時の学習指導

1. 題材 基礎技術を習得しよう。
2. 授業の視点

これまでの授業で、生徒は、アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、サーブとといった基本技術の向上に取り組んできた。準備姿勢やそれぞれの技のフォームのポイントは、概ね理解して取り組もうとする姿が見られるが、実際に運動発現をすることは難しい状態である。

そこで本時は、これまで学習してきた技を復習させるとともに、さらなる技能の向上に努めさせることをねらいとする。授業の前半では、ウォーミングアップを兼ねてバレーの基本的な技の復習を行わせる。ポイントを意識して練習させることや、手や腕で三角形を作る等のポイントを提示したり、教師が示範したりすることで、既習内容の確実な定着を図る。次に、これまで学習してきた技を振り返り、自己やチームの課題を見つめるために、グループワークを行わせる。そうすることで、生徒は、積極的に話し合いに参加しながら、自己やチームの課題を明確に見つけたい。最後に、チームで見つけた課題を解決するために考えた、各チーム独自の練習方法を実践させる。教師は、練習の様子を観察しながら、準備姿勢や正しいフォーム等について、言葉かけや示範を行う。また、各チームでの練習が異なるため、ボールが転がった際の合図を意識させたり、チーム間の間隔を取らせたりする等の言葉かけを行う。

これらの学習を通して、自己やチームの課題を見つけ、それに応じた解決策を考え、実践する能力を身に付けさせたい。そして、その後に行う三段攻撃を円滑に進めるために、安定したボール操作ができることともに、チームに合った練習方法や作戦を選択できるようになることを期待したい。

3. 目標

○既習の技を復習し、自己やチームの課題を見つけることができる。

4. 過程

	生徒の活動	教師の手立て・評価
0	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合、点呼を行う。 2. 準備運動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・準備体操 ・補強運動 3. バレーの基礎練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボレー ・両腕ストロップ ・ヘッドインギョキヤッチ ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の健康状態や怪我の有無を確認する。怪我や体調不良等で授業に参加できない生徒に対しては、生徒の状態に応じて指示を出す。 2. 怪我を防ぐために、本時の活動でよく使う肩・手首・膝・足首等を入念にほぐすように言葉かけを行う。 3. 相手が取りやすいボールやすくいボールを返球することができるようにするために、各チームで2~8人になり前回の練習を踏まえて取り組ませる。バスの練習では、「30秒間落とさずにやってみよう」とゲーム要素を加え、目標を決めることで生徒の学習意欲を高める。また、安全に活動するために、常に周りの様子に気を配って練習を行うように声を掛ける。

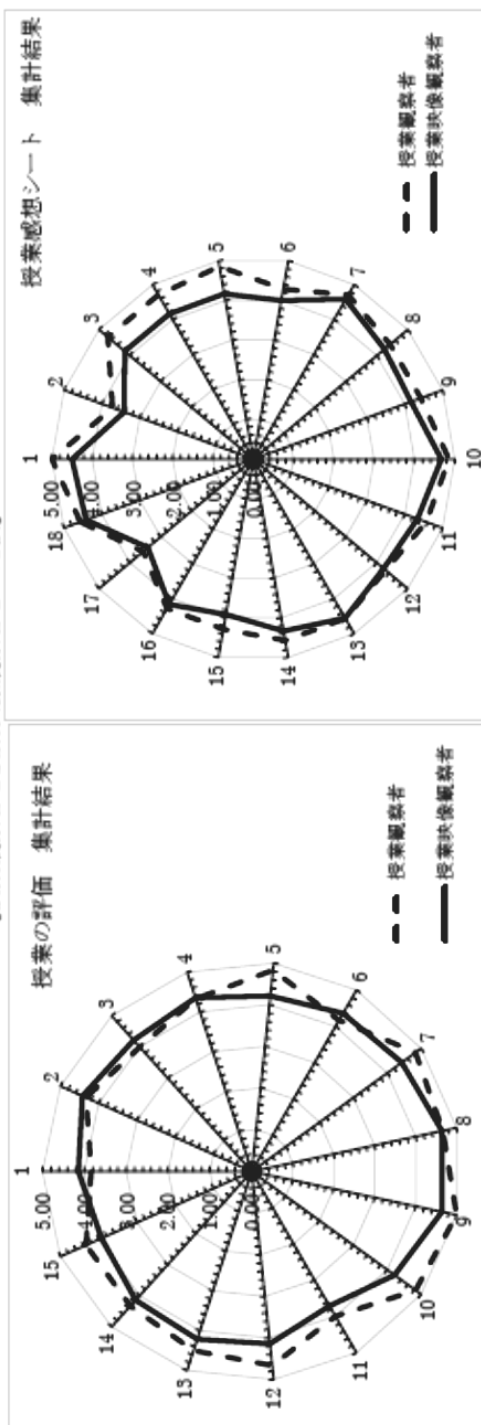
(本時の目標) 自己やチームをレベルアップさせよう。

(予想される課題)

- ・狙ったところにパスをすることができない。
- ・サーブがネットを越えることができない。
- ・チーム内で見合っていない、ボールがつかない。

15	<p>4. 本時の目標・活動を確認する。</p> <p>5. 自己やチームの課題について、集まって話し合う。</p>	<p>4. 本時の目標や活動の流れを示すことで、活動の見直しを持たせる。</p> <p>5. これまで学習してきた技を振り返り、自己やチームの課題を見つめるために、グループワークを行わせる。そうすることで、生徒は、積極的に話し合いに参加しながら、自己やチームの課題を明確に見つけさせたい。さらに、課題に対して具体的な練習の取り組み方を工夫できるようにさせたい。教師は、話し合いの様子を観察しながら、課題が深く追及されているかどうかや、練習の取り組み方等についての言葉かけを行う。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークに積極的に参加しようとしている。(関心・意欲・態度) ・自己やチームの課題を見つけている。(思考・判断)
25	<p>6. チームで考えた練習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半の練習 (4分) ・振り返り (2分) ・後半の練習 (4分) 	<p>6. チームで見つけた課題を解決するために、自分たちで考えた練習方法に取り組ませる。練習時間を前半と後半に分け、間に話し合いを設けることで、練習方法の振り返りや改善点、上達度について考えさせたい。教師は、練習の様子を観察しながら、準備姿勢や正しいフォーム等について、言葉かけや示範を行う。また、各チームでの練習が異なるため、ボールが転がった際の合図を意識させたり、チーム間の間隔を取らせたりする等の言葉かけを行う。</p>
35	<p>7. 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの振り返り 	<p>7. 本時の振り返りとともに、チーム別での練習についての反省を、ワークシートに記入させる。練習方法が適切だったか、積極的に取り組んでいたかの観点で振り返りを行わせることで、課題を見つけ、それに応じた解決策を考え、実践する能力を身に付けさせたい。また、発表させることで多角的な気づきができることを促す。</p>
40	<p>8. アタックのフォームについて学習する。</p>	<p>8. 次回から行うアタックの練習を、スムーズに行うために、フォームの確認を行わせる。その際、締め前で打つことや、アタックをしない手でターゲットポイントを示す事を意識させる。</p>
50		

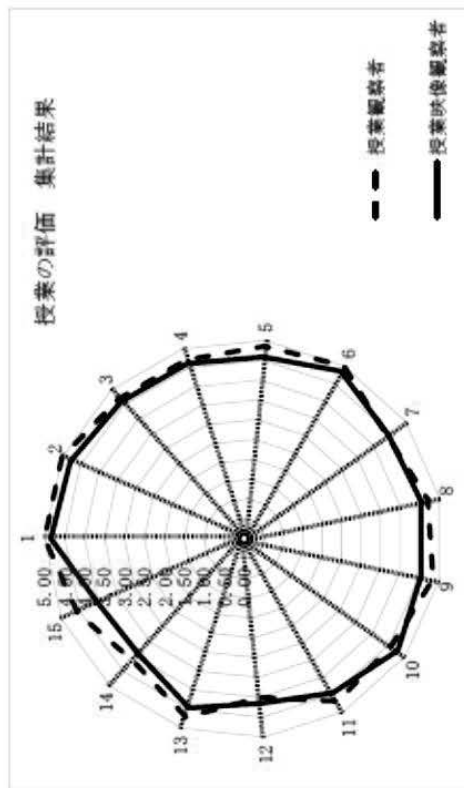
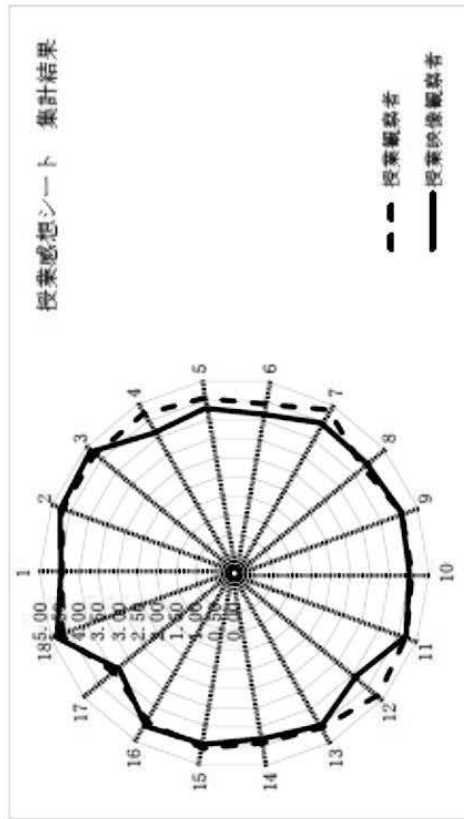
図 1. 第3学年「球技：バレーボール」の学習指導案



【授業者からの見解】

全体的にスムーズに活動することを意識した手順を随み、授業を進めることができているという点で至らない点が多かったということが、授業者自身の反省と同様に述べられており、納得のいく評価であったと思う。しかし、評価自体は自分の思っていた内容よりも高い印象を受けた。授業感想シートでは、項目2及び項目17の2項目が最も評価の低い項目であった。項目2については、普段の反省の中でも「生徒の声と混ざりこんでしまい、聞こえづらい」という意見が多数出ており、授業者自身も常に意識して声を出していた。しかし、今回の授業では実習を通して最も緊張した担当授業であったため、体が硬直していたことが要因であると考えている。改善点は、集合点から話をしようにすること、腹筋に力を入れて声を張ることである。項目17については、今回の授業の内容にどこまでユーモアを盛り込んで授業を行うのかという想定が付いておらず、準備不足が生み出した結果であると感じている。本授業では「思考力・判断力を伸ばすための授業」として設けたため、生徒自身の活動の中で生まれる生徒同士のユーモアを重視したいという狙いも持ちながら授業を行った。また、最も高い評価を受けたのが項目1であった。反省の中で良かった点に「落ち着いて話すことができている」という意見も受け、その点には自信があったため、更なる自信となった。また、表情や表現が豊かであることができていたこと、板書が美しいことなども、落ち着いた振る舞いに次いで高い評価を受けることができた。授業の評価では、項目10が最も高い評価を受けたが、項目10が最も高い評価を受けた。項目1の原因は、生徒の班に教師が積極的に入り込み、フィードバックを行うことができなかった点にある。本授業では生徒の「思考力・判断力」を養うことを目的とし、今まで学習したペレールの中の基本的な技を課題探究により普段とは異なる視点から見つめ直して今までより高いレベルの技ができるようになるために授業に取り組みさせた。教師が班の中でフィードバックを行う際に、どうしても教師主体のフィードバックになってしまうことを授業内で最も心配してしまっただけでなく、教師の行動がみられなかった原因であると考えている。それぞれの班で異なる授業を行っていき、全体へのフィードバックの行うタイミングや方法を知っておかなければならなかったと感じている。また、生徒が自ら進んで学習している姿がみられたことは今回設定した教材の効果が出ていると感じた。今後の授業の中でも自身の課題を見つながら、周りの生徒と協力して解決していく授業がさらに展開されていくことが求められる。授業観察者と授業映像観察者の比較については、直接観察することと、媒介して観察することでは観察の視点が大きく異なることを理解した。特に、前者は教師の行動・発言、子どもの反応を敏感に感じ取り、観察していた。また、後者は、授業全体の流れ、効率性を重視して観察している傾向があるのではないかと感じた。しかし、どちらの評価も、声が通らない等の共通した指摘も多くあり、それ両者の比較をすることはできなかつた。観察する環境の違いが、評価に大きく影響を及ぼしているのではないかと考えた。

図2. NYの考察結果



○観察者からの感想

- ・教師が元気で楽しそうにしていたため、生徒にも姿勢が伝わって楽しんで笑顔が多かった。
- ・メリハリがあった。

- ・フィードバックの時間が多かった。(個人、チーム)

- ・個の指導と全体への指導のバランス

- ・アンダーハンドパスの説明について

- ・ゲーム性を取り入れた内容について

- * 授業者と観察者の差

- * 授業者と観察者の差

○授業者の感想

今回の授業では、「教師がまず楽しむ、テンポ、メリハリ」を意識して授業を実施したので、そのポイントについて評価されていた点は良かった。また、グループ学習にしてフィードバックの時には生徒同士で改善すべきところを出し合っていたが、活動中に生徒同士で教え合う場面が出てこなかったことで、「授業の評価」の項目 14 の評価が全体的に見て低かったのも理解できた。しかし、項目 12 の評価が最も低かったことは授業者と観察者のギャップだと感じている。その原因は、今回の授業の約束事が多くなりすぎたことと授業全体の約束事がルーティン化したことだろうと予想している。また、項目 15 について多く差が見られた。授業映像では、生徒の上達度がわかりにくいためこのような結果になったのではないかと考えている。比較した表を見ても分かるように、項目 12 及び項目 14 については全体的に見て低い評価になった。今回の授業では、あまり約束事を設定しなかったためこのような結果になったと考えている。また、グループワークを多く実施したが、活動中に生徒同士でアドバイスをしようとする場面が少なかった。しかし、話し合いの時には、自己やチームの課題について深く話し合い、解決するために意見を出し合っていた。授業者の視点から見ると、それほど悪くないのではないかとと思う。

「授業感想」については、項目 1 について差が出た。一つの要因は授業映像では板書がほとんど映し出されなかったことと、項目 17 については、2 つの図を比較しても低い評価となったが、授業でのユーモアやセンスといったことへの理解が不足している。これからしっかりと考えていきながら、自分を磨くことができるように努力していきたい。

図 3. KS の考察結果

授業観察における大きな課題は、授業者実施者と観察者の視点の差異である。教員養成課程の学修では、両者の視点を理解しながら差異を明確にすることが重要である。その一つが行為の中 (in) の省察と行為について (on) の省察⁵である。さらに、授業を観察する際の自らの資質及び能力を整理し自覚しておく必要がある。それは授業者や観察者の資質能力だけでなく、各自治体が作成した教員育成指標¹³も含まれる。教員養成課程の学修を通じた「転換」の対象は場の意味づけ (in/on)・資質及び能力 (指導者/学習者)・視点 (授業実施者/観察者) である。

4. 結及び今後の課題

本研究では教育実習期間中の学生による授業を観察し、教員養成課程における学修を通じた「視点の転換」の必要性を論じた。転換の対象は場の意味づけ・資質及び能力・視点である。今後は転換の内容について考察を進める必要がある。

付記：本研究では、長崎大学教育学部保健体育専攻の曾我部快渡さん及び吉田奈々子さんからデータ分析や討論において多くの支援を受けた。ここに記して感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

- 1 これまでの研究成果については以下を参照されたい。田井健太郎・河合史菜・元嶋菜美香・久保田もか・高橋浩二・宮良俊行 (2018a) 教員養成課程における保健体育模擬授業に関する研究—授業場面と形式的授業評価に着目して—。長崎国際大学教育基盤センター紀要, 1: 29-38. 田井健太郎・河合史菜・元嶋菜美香・久保田もか・高橋浩二・宮良俊行 (2018b) 複数大学による授業研究会についての一事例—長崎国際大学・長崎大学保健体育授業研究会をもとに—。長崎国際大学教育基盤センター紀要, 1: 123-130. 田井健太郎・河合史菜・元嶋菜美香・久保田もか・高橋浩二・宮良俊行 (2018c) 教員養成課程における模擬授業の省察に関する研究。長崎国際大学論叢, 18: 31-46.
- 2 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎 (2008) 教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究—テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素—。広島大学大学院教育学研究科紀要, 第一部, 第 57 号: 69-76.
- 3 藤田育郎 (2017) 教材づくりに焦点を当てた体育模擬授業の実施方略に関する事例的検討。体育学研究, 62: 757-771 (研究資料).
- 4 中央教育審議会 (2015) これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ (答申). http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf
- 5 ショーン, D.A. : 柳沢昌一・三輪健二監訳 (2007) 省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考—。鳳書房, p. 71.
- 6 レイヴ, J., ウェンガー, E. : 佐伯胖訳 (1993) 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—。産業図書.
- 7 稲垣忠彦・佐藤学 (1996) 授業研究入門。岩波書店.
- 8 佐藤学 (1996) 教育方法学。岩波書店ほか。以下についても参照されたい。岡野昇・佐藤学 (2015) 体育における「学びの共同体」の実践と探究。大修館書店.
- 9 詳細は、以下の第 5 章及び第 6 章を参照されたい。中田基昭 (1993) 授業の現象学。東京大学出版会.
- 10 中田基昭 (2008) 感受性を育む—現象学的教育学への誘い。東京大学出版会.
- 11 溝上慎一 (2018) アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性。東信堂.
- 12 高橋健夫編著 (2003) 体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント。明和出版.
- 13 以下を参照されたい。長崎県 教諭等としての資質の向上に課する指標。長崎県教育センター。 https://www.edu-c.news.ed.jp/web_contents/sihyou/01.pdf